

2020年5月1日

近畿労働金庫  
理事長 石村 龍治 様

## 「2019年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2019年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会  
審査委員長 福澤 邦治

「2019年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

### 1. 審査について

今回の審査委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として書面審議による選考とし、互選により審査委員長を選出しました。書面審議では、事務局から各委員に「各委員による書類審査の集計結果の報告」と「意見の聞き取り」が行われ、大賞1団体、優秀賞2団体、奨励賞5団体を選考しました。また、小規模な団体向けのはぐくみコースから、はぐくみ賞として4団体を選考しました。

審査委員は下記の通りです（敬称略）。

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

- 審査委員長 福澤 邦治 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 岡本 瑞子 （特定非営利活動法人 子どもNPO和歌山県センター 理事長）
- 山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）
- 吉村 恵理子 （公益財団法人 コープともしびボランティア振興財団 事務局長）
- 八尾 高伸 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

### 2. 受賞団体の決定にあたって

本アワードは子育て支援をテーマに実施し、近畿2府4県から総計62件もの応募がありました。そのうち、新しい団体や活動規模は小さくても地域のために頑張っている団体を応援する「はぐくみコース」の応募14件が含まれています。どの応募も甲乙つけがたい状況で、審査委員会での助成団体の選考はたいへん熟慮を要しました。

2019年度の応募内容の特徴は、地縁・血縁のつながりが薄くなっている中で、社会のネットワークが届かない子どもたちに着目し、学校に居づらさを感じている子ども、障がいを持った子どもや外国にルーツを持つ子ども等とその親を対象としたプログラムが多く見られました。また、はぐくみコースには、小規模な団体であるものの今後の成長に期待できるプランの応募があり、少ない財源の中で真摯に活動を進める市民活動団体にとって、本アワードのような助成が必要であることを改めて確認することができました。

審査にあたっては、事業の「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」などの項目に加えて、「組織の継続性・運営体制・活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、選考しました。

はばたきコースでは、〈大賞〉・〈優秀賞〉を受賞した3団体は、企画内容の先進性や実現性に加え、それぞれの特色を活かした創意工夫や今後の発展性が高く評価されました。この3団体とは僅差ではありましたが、社会性・共感と市民参加などの点で高く評価された5団体を奨励賞に決定しました。はぐくみコースでは、4団体選定しました。（※各受賞団体の事業プランや選考の講評については、次ページ以降をご確認ください）

また、受賞団体以外の団体についても、その事業や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを付け加えておきます。

### 3. 今後の提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用が、子どもたちの未来と地域の子育て支援につながるという仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして実施され、今回で14回を数えました。

応募プランは、いずれも社会的ニーズに基づいた切実なものばかりで、「子育て支援」が勤労者にとって共通する社会課題であり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える《ろうきん運動》にとっても大きなテーマであり、まさに《ろうきん》に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんNPOアワード」のような《ろうきん》の特性を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を継続いただきたいと強く要請する次第です。

また、会員推進機構と一体となって進む《ろうきん》として、社会に役立つこのようなプログラムが実践されていることを各会員労働組合においてもぜひ伝えていただきますようお願いいたします。

※次頁以降の「団体の活動内容」および「応募プログラムの内容」は、応募団体からの申請書の内容にもとづき掲載しています

～はばたきコース～

<大賞 1団体>

- 特定非営利活動法人 ホッピング（和歌山）／助成額48.1万円  
 趣味や特技・子育て経験を活かそう！  
 これから何かはじめたいママたちの子育て支援・起業支援

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体のミッションは、和歌山市とその近隣地区にて、子育て中の母親たちの家庭から地域、地域から社会へのソフトランディングを支援することである。各自の多様性を認め合い、「自分らしく生き生き」と社会参画できる地域づくりをビジョンに、約1,000組の会員で「自助・共助のコミュニティ」づくりをしながら多様な事業展開をしている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>家庭に比重を置きながらも自分の好きなことで起業を希望する母親たちの「自助・共助コミュニティ」をつくり、子育てママの仕事と家庭の両立支援を行う。</p> <p>団体としての年間計画は、「ママ講師事業の実施（10月から翌年9月までで1期）。交流会の定期開催（毎月1回）。見学会・登録会の実施（10月からの活動開始に向けて、7月に見学会、8・9月に登録会を実施）。ママ講師塾の開催（ママチャレンジ塾、ステップアップ講座）。ママ講師®主催イベントの開催（団体、企業と連携し、子連れファミリーで参加しやすいイベント。『学び』『健康・美・癒し』『趣味・暮らし』等のワークショップ、ステージイベント。ママ活動発表会と家族交流の場を提供）。ママ講師®活動のプロフィールを作成。」を予定している。</p> <p>今年度は、特に「ホッピング登録ママ講師®事業の周知」に力を入れるために、ファミリーフェスタのイベントの充実、企業へのPR活動、ママ講師®関連ホームページの充実を企画している。</p>
<p>審査講評</p>	<p>就労、家庭、子育て、3つを同時期に実現することは、とりわけ女性にとっては厳しい現実がある。実際の生活現場で母親が実感できるものとして届くまで実施し続けることが必要である。その意味で、当該団体が、長期にわたり、多くの会員を増やしながらネットワークを広げ、活動を充実させていることを評価し、また、今後の事業の発展に大いに期待したい。審査委員会では、母親たちの「自助・共助コミュニティ」づくりと支援の質の向上に努めたり、他セクターとの幅広い連携を行っていること等、「先進性」「共感と市民参加」「組織の継続性」「市民主体性」を高く評価した。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 認定特定非営利活動法人 びわこ豊穰の郷（滋賀）／助成額30万円

環境学習の機会を通し子どもが年代に関係なく多くの「仲間」と活躍できる場づくり

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、1996年、琵琶湖の中で最も水質悪化が進んでいると言われた赤野井湾の再生を目的に豊穰の郷赤野井湾流域協議会として設立した。発足当初より、自治会や各種団体、地元企業に呼びかけ協議会を開催し、地域住民とともに水辺環境保全活動を展開してきた。2004年にNPO法人格を取得し、今は、守山市ほたるの森資料館の指定管理はじめ琵琶湖の水環境の保全とともに次世代の育成に力を入れている。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>夏休み「生きもの観察教室」と春休み「こどもほたるガイド教室」を各3日間の連続教室として開催する。連続教室では、大学講師、樹木医、学芸員など専門家が講師を招き、子どもたちは学校では得られない知識を得ることができるとともに、地域で水辺を守る活動を<u>している</u>人の喜びや課題など、生の声を聴くことができる。</p> <p>プログラムの3つの狙いは、生きものや水辺環境について思う存分学ぶことができる場の提供とともに、学年や学区を超えた仲間づくりができる場の提供、また、人の役に立つことの喜びを実感できる場の提供である。これらの機会を通して、子どもが自らの学びにとどまらず、子どもリーダーや子どもガイドとして活躍する「仲間と活躍できる場づくり」を旨とするものである。</p>
<p>審査講評</p>	<p>学年や学区を超えた仲間づくり、人の役に立つことの喜びを実感できる場づくりは環境学習が単なる学習に終わるのではなく、子どもの人材育成への波及効果を期待でき挑戦的な内容といえる。また、スケジュールや予算も細かく計画されており、実現可能性は高い。審査委員会では、「創意工夫」「実現性」「資金計画妥当性」「組織の継続性」を高く評価した。SDGsにも示されているように、環境との調和は人類共通の課題である。琵琶湖という他にない資源を活用したこの取組みが、水環境の保全活動を広める次世代の育成活動をさらに広げていくことを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 子どもの生活支援ネットワークこ・はうす(和歌山)／助成額30万円  
定時制高校内居場所カフェのパワーアッププログラム

<p>団体の活動内容</p>	<p>2015年1月に和歌山市で経済的事情や親の病気・長時間労働等により支援を必要としている小中学生を対象に「無料学習支援とみんなでごはんの会」事業を始めた。市民・学生を対象に子どもの貧困問題や子ども支援のあり方について学ぶ機会を設けることで、理解を深めるとともにボランティアの養成プログラムで2015年度当制度のはぐくみ賞を受賞した。</p> <p>現在、夜の居場所づくりと学習支援と合わせて約30名の小中学生が登録しており、送迎時に会える親や支援者との会話を通して、家族支援にも取り組んでいる。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>定時制高校には、本人の発達課題や家庭状況の困難さを背景として、不登校経験や学習の遅れを抱える生徒が少なくない。貧困の連鎖を止めるという意味でも、定時制高校等の生徒を支える社会資源がさらに必要である。</p> <p>昨年6月より、当団体が和歌山県内では初めて、きのくに青雲高校定時制において、高校内での居場所づくりを試験的に行ってきた。今回の応募プログラムは、次第に生徒たちの中で認知度も上がって定着しつつある高校内居場所をさらに充実した取組みとするものである。</p> <p>具体的には、生徒たちが誰でも気軽に参加できる居場所を、年50回程度(試験期間と長期休暇を除く毎週火・水曜日、昼休憩または夜間の授業開始前)、各回約1時間、生徒ホール・厨房・図書館で実施する。教室ではないインフォーマルな場所での生徒の様子を知ること、生徒を多角的に理解することができる。日報や定例会を活用して気になる生徒の情報共有を図り、学校全体での支援や必要な他機関の支援につなげる。</p>
<p>審査講評</p>	<p>子どもの貧困対策を取組んできた当団体が、和歌山県内で先駆けて高校内での居場所づくりにチャレンジし、モデル化を意識し他校にも広げるきっかけとしようとしている点で「先進性」「社会性」「効果と発展性」が評価された。また、現在、試験的に自主事業として開始した取組みをもとに充実した内容にしようとする点も「実現性」が期待できる。</p> <p>過去に当制度のはぐくみ賞を受賞した団体が、成長し、さらに活動を発展させている姿を見ることは喜ばしいことである。本事業が県内他校のモデルとなり、さらには公的な制度化へとつながることを期待したい。</p>

<奨励賞 5団体>

- 特定非営利活動法人 キンダーフィルムフェスト・きょうと（京都）／助成額20万円  
第26回京都国際子ども映画祭

団体の活動内容	<p>文学・美術・音楽・演劇・文化を含んだ総合芸術、言語・国境を超える視聴覚芸術と呼ばれる映画を通して、子どもたちがメディア・リテラシー（映画・映像を読み取り、表現、描く能力）を身につけて異文化理解を深め、社会参加の機会の拡充を図るとともに、豊かな成長と生活文化環境の向上に寄与することを目的に、1994年から京都国際子ども映画祭を続けている。なお、当団体の事業は、2007年度当制度の奨励賞を受賞している。</p>
応募プログラムの内容	<p>本事業は、子どものメディア・リテラシー教育と異文化理解などを身につける機会として、世界の子どもの描いた作品を上映する「第26回京都国際子ども映画祭」を開催するものである。子どもが司会・オープニング映像制作・ゲストインタビューなどの運営をスタッフとして活動するとともに、公募の子ども審査委員が、グランプリを選出し講評まで行うなど、地域も年齢も違う子どもたちが相互理解と思いやりのコミュニケーションを養う場とする活動を実施する。</p>
審査講評	<p>本事業は、映画祭によって、子どもが主体となって他国の文化・歴史の違いや同じ点など、社会全体に向ける目を持ち、自身が体験しながらそのテーマを感じ取れる貴重な機会を創るものである。</p> <p>これまでの映画祭を長年にわたり開催してきた実績は「実現性」、子ども審査員からスタッフ、実行委員、法人理事への循環も生まれていることは「効果と発展性」、子どもの運営への参画は「創意工夫」、大学などの地域資源の連携「共感と市民参加」として評価した。</p>

- 特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity (大阪) / 助成額 20 万円  
 様々な理由で髪を失った子どもたちに、一人ひとりの頭の形を採寸して作製する、  
 世界に一つだけの「Onewig」を無償で提供するプログラム

<p>団体の活動内容</p>	<p>抗がん剤治療の過程で髪をなくした子ども達の、毛髪を失った精神的なストレスの軽減と高額な治療費で圧迫される家計を助け、患者と家族に安心を与え、復学へのハードルを下げるため、日本国内でヘアドネーション（髪の寄付）を受付け、子ども達へウィッグ（カツラ）を提供する活動を行っている。</p> <p>具体的な活動は、全国から若い女性や母娘たちから髪の毛や、中古カツラの提供を受け再生処理後、フルオーダーの医療用ウィッグを製作し子どもたちに提供するため、毛髪の寄付の受付や、電話による相談業務、チャリティーイベントの企画・運営など活動を行っている。なお、当団体の事業は、2011 年度当制度の大賞を受賞している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、世界中の寄付者からヘアドネーションとして寄せられた人毛を、様々な理由で頭髪を失った子どもたちに、メジャーメント（頭の型取り）を通じてヘアスタイルや希望の長さなどを伺い、ハンドメイドのオーダーウィッグとして制作し、一人ひとりに無償で提供する事業である。</p> <p>当団体がめざすのは、「髪が無くても、それも個性の一つ」として受け入れられ、多様性を認め合う社会だと考えている。しかし、現状では「このウィッグに救われた」「娘はウィッグの無償提供を受け、ウキウキして学校に通っている」など、多くの声が届いている。現在、年間 150 件を超えるウィッグ希望申請があるが、予算や人手の問題から 100 件程度の提供に止まっている。ウィッグを必要とする子どもたちに漏れなく届けることをめざしたい。</p>
<p>審査講評</p>	<p>病気により頭髪を失った子どもに、「人の髪の毛」を寄付にて提供を受け、「無償」でその髪を使ったウィッグ（カツラ）を提供するという、二つを行う団体は世界的にも珍しいとのこと。</p> <p>難病などにより頭髪を失った子どもを支援する本事業のさらなる展開に寄せる期待は大きく、医療関係者、支援者・支援団体だけでなく、活動が今後より一層広がっていくことを期待する。審査委員会では、当事業の「先進性」「社会性」「実現性」「共感と市民参加」を高く評価した。</p>

■ 特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス（兵庫）／助成額20万円  
小児がんや重い病気の子どもと社会をつなぐ『かえっこバザール』の開催

<p>団体の活動内容</p>	<p>2006年に法人設立後、「がんになっても笑顔で育つ！」をスローガンに、小児がんの患者児童やその家族の生活の質の向上に配慮し、ハウスとクリニックを併設した、日本で初めての小児がん専門の施設「(通称) 夢の病院」建設に向けた活動を行ってきた。2013年2月にその「チャイルド・ケモ・ハウス」を完成させ、翌年より患者と家族の受け入れを始めた。施設では子どものあそび学習支援、きょうだい児支援、家族の生活サポートを行い、また、「かえっこバザール」やがん教育講演会など、一般の方々への小児がんの啓発活動にも積極的に取り組んでいる。当団体の事業は、2011年度当制度の優秀賞を受賞している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>入院中や自宅療養中の子どもたちは、社会とのつながりが断ち切られていて、地元の学校や幼稚園に戻った時にすぐにはなじめず不登校気味になることも少なくない。本事業は、一般の方々への小児がんの啓発活動の一環として取り組まれているプログラムであり、重い病気の子どもと家族が社会とつながるきっかけとなることを目的としている。</p> <p>『かえっこバザール』は、子ども同士で遊ばなくなったおもちゃなどを交換するイベントで、子どもたちはワクワクする環境の中で、ワークショップなどを通じて様々なことを学ぶ機会となる。また、インターネットを通じて入院中や在宅療養中の子どもたちの『かえっこバザール』への参加支援を行ったり、治療や生活で「がんばったねポイント」を貯め、イベント当日のおもちゃ交換のポイントに使えるようにするなどの工夫をしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>小児がんのため長期入院中の子どもと家族の「生活」は、子どもだけでなく、家族にも肉体的・精神的・経済的にも大きな負担となっている。そこで小児がんの子どもたちとその家族が自宅のような環境で治療を受けることができる専門の施設の試みは、現在の医療のあり方に対する問題提起でもある。</p> <p>前回の本制度受賞後、施設の完成、患者と家族の受け入れを開始、企業、行政、団体との連携の拡大と事業内容は確実に充実してきている。また、一般の方々に当事者のことや病気について知ってもらおう啓発プログラムにも工夫があり、今後、小・中学校でのがん教育などへの展開が期待される。審査委員会では、「社会性」「共感と市民参加」「組織の継続性」を高く評価した。</p>

■ 学習サポート with YOU (大阪) / 助成額 20 万円  
 ～貧困のサイクルを断ち切るために～  
 (ひとり親家庭の子どもの学習支援・with YOU)

団体の活動内容	働くシングルマザーの生活相談で、「母親の賃金だけでは満足に塾に行かせられない」「忙しくて子どもと話す時間も取れない」と子育ての切実な悩みを受け、①子どもの学習権を保障する。②困ったことを相談したり自分を出せる居場所づくりを目的に 2014 年にひとり親家庭のための学習塾をつくった。
応募プログラムの内容	経済格差が拡大する中、貧困によって学習権が保障されておらず、支援を要する子どもたちは広く存在している。自分たちの仲間の切実な問題を解決するために始めた学習塾である。小学生の部は週 3 日、中学生の部は 2 組に分けて週 2 日づつ実施している。生徒はここ数年、20 人前後を維持しており、さらに増えていくことが見込まれている。月ごとに通信を出したり、親との懇談により家庭との連携を大切にしている。また、母親の帰りが遅く、孤食の子どもが多いため、給食の充実を図っていく。
審査講評	働くシングルマザーの生活相談から始まった活動であり、単なる学習塾ではなくプログラム構成も工夫がみられる。また、この塾を卒業した生徒が大学生となり講師として子どもたちを教えるというサイクルが生まれてきている。学習塾の講師である大学生へのアルバイト代は奨学金に苦しむ大学生への支援というもう一つの社会課題への対応という位置づけもある。審査委員会では、当事業の「創意工夫」「社会性」「効果と発展性」を高く評価した。

- 奈良スコーレ（奈良）／助成額 14.9万円  
 スコーレ食堂  
 （食を中心とした不登校の子どもの居場所づくりプログラム）

団体の活動内容	<p>代表自身が不登校を経験しており、その経験を生かして研修や講演活動を行っていたところ、2018年に行われたシンポジウムのあと、学校以外の学び場を必要とする子どもの保護者や支援者等と一緒に本法人を設立。</p> <p>フリースクール事業を中心として、訪問活動、保護者向けサロンなどの事業の他、研修・講演会などの開催を通じて、フリースクールや子どもたちの居場所の重要性に関する啓発活動も行っている。</p>
応募プログラムの内容	<p>平日は週に1回、休日は月に1回、フリースクールに通う子どもたちがスタッフやボランティアと一緒に昼ご飯を作るプログラム。子どもたちにとって大切な食事環境の向上や保護者の負担軽減をはかることをねらいとしている。</p> <p>実施にあたって、地域の人々にかかわってもらうことで、フリースクールが地域のコミュニティの存在の一つとして認知され、人々が支え合って暮らしていくことができる社会づくりをめざしている。</p>
審査講評	<p>本プログラムは給食のシステムがないことから起因する負担を解消したり、食事を通じたコミュニケーションの向上を意図したもので、「創意工夫」の点を高く評価した。</p> <p>また、事業歴がまだ浅いにもかかわらず、地域の子育て支援団体や社会福祉協議会、管理栄養士等の専門家と連携を図っており、その「実現性」についても高いものと評価した。</p>

■ 笑顔つながるささやまステイ実行委員会（兵庫）／助成額10万円

笑顔つながるささやまステイ 2020 事業

団体の活動内容	福島第一原発事故による放射能の影響を受けている子どもたちと保護者を招く事業「ささやま里ぐらしステイ」を2012年から2014年にかけて実施していたが、再度ステイの必要性に思いを寄せた有志が集まり、実行委員会を立ち上げて「笑顔つながるささやまステイ」として再度実施することとなった。
応募プログラムの内容	8月に4泊5日のステイを行い、福島県から5家族20名程度を招く。子どもたちには自然の中で思い切り遊ぶ機会を提供し、保護者には社会福祉士によるケアプログラムを実施する。 その他、6月にはステイの意義を知っていただく写真展、ステイ実施後には報告会兼勉強会を実施する。
審査講評	原発問題について実態としてはいまだ大きな進展が見られず、人々の関心も徐々に薄れていく中、本団体のように長きにわたって活動を行う団体の意義は大きい。今年度は新型コロナウイルスの問題があるものの、形を変えてでも現地支援や市民への啓発活動を実施してもらいたい。

■ 特定非営利活動法人 まなあそび（京都）／助成額10万円

「KIDS 観光大使（醍醐寺・だるま寺）」

団体の活動内容	現役の教員である代表理事が「徒歩5分の世界遺産で歴史や文化に楽しく親しめる活動があれば」という思いがきっかけで2007年から任意団体として活動を開始、子どもたちに、教室をはなれた地域の人として普段できない経験を提供することを目的としている。2019年からはNPO法人化し、担い手をふやしながら活動を行っている。
応募プログラムの内容	①地域の伝統産業体験等普段できない体験を提供し、楽しく文化・歴史に触れてもらうことで、地元への理解・愛着を持ってもらう。②ガイド事業等では自ら京都について学んだことを人前で話し、子どもたちの自主性をはぐくむ。
審査講評	歴史と文化を大切にしたい、子ども主体の活動として評価できる。地域の寺院との連携という視点も、これまでの申請団体にはあまり見られないもので、「創意工夫」「新規チャレンジ性」を高く評価した。 本アワードの助成を契機に、本プログラムがより多くの人を巻き込んだ新しい展開に発展することを期待する。

■ ワールドアミーゴクラブ(滋賀) / 助成額 10 万円

ワールドアミーゴクラブ

活動内容 団体の	2000 年より外国籍児童の保護者から夏休みの教育相談を受けたことがきっかけで学習支援活動をスタート。徐々に支援範囲を拡大し、2005 年より高校進学支援を行うなど、地道に活動を行ってきた団体。
応募プログラムの内容	毎週土曜日に日本語指導や教科学習の支援およびゲームや食の体験などの多様な文化交流活動を通して、外国にルーツをもつ子どもたちの居場所づくりを行う。また、夏休み等の長期休暇支援、中学生の放課後学習支援など多岐に渡るメニューを子どもたちに提供する。
審査講評	<p>労働者不足に外国人労働者の活用で対応するという国の政策が推進されればされるほど、日本語を母語としない子どもの増加は必然であり、本来は公的な支援を行うべき領域であるが、そのことが十分にできていない現状では、本団体のような活動が子どもたちを支えている。</p> <p>プログラムでは多文化共生イベントへの参加やボランティアの参加に対する工夫など、「共感と市民参加」について高く評価した。本プログラムが広く社会の理解へつながっていくことを期待したい。</p>

■ Teenagers' Free! Theater (兵庫) / 10 万円

ちょっと学校に行きにくい 10 代のための演劇サークルプログラム

活動内容 団体の	2005 年より運営を開始、フリースクールや適応教室、スクールカウンセラーの充実など、不登校対策は進んでいるものの、学校に準ずる居場所に適応できない子どもたちや自分を表現する居場所がないと感じている子どもたちに対し、演劇活動を通して自身と自己肯定感を高める場所を提供している。
応募プログラムの内容	<p>不登校やコミュニケーションが苦手な子どもたちを対象に、演劇を通してコミュニケーション力や自己表現力を向上させ、自身と自己肯定感を高めることを目的としたプロジェクト。</p> <p>12 月に実施する公演に向けて参加者の募集や練習会の開催する。講演終了後は修了式と保護者報告会を行い、1 年を通じた本人の良い点などを伝える等の参加者へのフィードバックを行う。</p>
審査講評	<p>様々な生きづらさを抱えた子どもたちひとりひとりに向き合い、スタッフ同士の情報共有などを密に行っていることや、卒業生が支えられた経験をもとに支える側となるなど、「創意工夫」の点を高く評価したほか、2020 年で 15 周年という節目に振り返りと持続可能性を探っていこうとしていることなどから「組織の継続性」についても評価できる。</p>